若井嘉人

高 26 期
鳥羽水族館副館長
生きものの不思議さに魅せられて水族館一筋 38 年。
座右の銘：「為せば成る」
家族構成：妻、子３人、亀３匹。趣味：旅行・英会話学習

＜あなたはどちらの道を選びますか?＞

突然ですが、皆さんは“運命は変えられる”と思いますか？私は「イエス」だと思います。

皆さんは物事がうまくいかなかった時、「ああ、あの時ああしておけばよかった・・・。」と後悔の言葉を口にすることはありませんか?毎日生活していると、大なり小なりどこかで選択を迫られることが必ずあります。そのような時皆さんは、何を判断基準にしますか?例えば A と言う「平坦で安全な道」と、B と言う「山中泊のスリルのある道」。あるいは今まで食べなれた「絶対おいしいパン」と見たことも聞いたことも無い「見た目の怪しい新製品のパン」。私なら迷わず B と新製品のパンを選びます。理由はどちらも苦労とリスクはありますが、B の方が自分の人生経験が豊かになると思うからです。過去はもう取り戻すことは出来ませんが、未来は今のあなたの選択で決まるのです。私は高3の終わりごろに畑正憲氏の「ムツゴロウの青春記」と言う本に出会い人生が大きく変わりました。特に何になろうとか、何をしたいという目標のないまま卒業を迎えてしまい、勢いで受験した大学も失敗し、いわゆる浪人生の身となったのでした。この時力を与えてくれたのがムツゴロウ氏だったのです。一度しかない人生なら自分の好きなことをやろう。そうすればつらい時でもきっと乗り越えられる。私は彼の本を読んでそう理解したのでした。彼の生い立ちや著書はここでは省略しますが、人間はああしたい、こうしたいと考えた時にすぐに行動できるかどうかが大事です。私は現在水族館で仕事をしていますが、動物の出産や病気の時は何日も家に帰れなかったり、徹夜の日々が続くことも多くありました。正直苦しいことの方が多かったのですが、それでもこの仕事を選んで本当によかったと思っています。それはこの仕事が、動物とふれあえることはもちろん、動物を通じて人を幸せにすることが出来る仕事だからです。決して楽な人生ではありませんでしたが、普通の会社勤めでは経験できないこともたくさんできました。また仕事を通じて海外に多くの友人が出来、それらは私の一生の宝物となりました。皆さんはおそらく自分が将来どうなるのか不安に思っている人がほとんどだと思います。しかし、もしあなたが何かを目指していて、今人生の判断に迷っているのならあえて楽ではない厳しい方の道を選んでみてはどうでしょうか?そうすれば、楽な方を選んだ時よりきっと自分が一回りも二回りも成長し、幅のある面白い人生を歩めるのではないかと思うのです。

皆さん、どうか悔いのない人生を。100 周年、本当におめでとうございます。

■プロフィール

1960 年 3 月 19 日生　大阪府堺市出身
1978 年 3 月　登美丘高校卒業
1979 年　3　月　近畿大学農学部水産学科入学
1983 年　3 月　同大学卒業・同大学水産研究所研修生となる
1984 年　3 月　株式会社　鳥羽水族館入社　飼育研究部配属　ジュゴンなど水棲生物飼育担当
2016 年 2 月より 同社取締役副館長 現在に至る